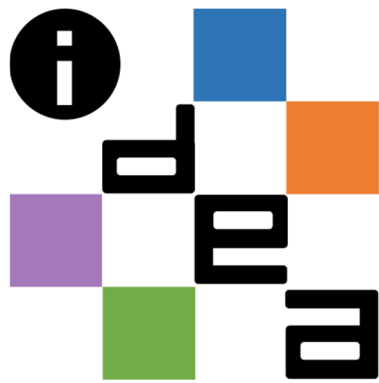


NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。  
ニュースレター アイデア



2018

2月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



- 2 | **二言三言** 地域におけるスポーツコミュニティのありかたを考える
- 4 | **団体紹介** 長徳寺・慶壽庵 手芸の会 (藤沢)
- 5 | **地域紹介** 大東 曾慶第 13 区部落会館 (大東)
- 6 | **企業紹介** 有限会社 ドリフアー花泉 (花泉)
- 7 | **センターの〇〇** センターの自由研究 厄年行事(年祝い)

## 地域におけるスポーツコミュニティのありかたを考える

対談者 車いすラグビー元日本代表監督 岩渕 典仁<sup>のりひさ</sup> さん  
 聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺 浩樹

岩渕典仁さんは、2009年から2012年まで車いす（ウィルチェア）ラグビー日本代表監督として選手の育成や指導にあたり、2012年にはロンドンパラリンピックにも参加。現在は監督を退き、実家がある室根に平成29年にUターンしてきました。そんな岩渕さんに、監督をしていた頃の経験や、一関・室根の地域づくりに関する思いをお聞きしました。

## ボランティアから始まり国の代表監督へ

【小野寺】まずは岩渕さんの自己紹介をお願いします。



車いすラグビー  
元日本代表監督  
岩渕典仁さん

【岩渕】私は運動全般が好きで小学校から大学まで野球とラグビーをし、将来は中学・高校の保健体育の先生になろうと思い、大学では運動・スポーツの教育について学んでいました。そんな中、父が病気になり、「一般的な中高生に運動を教えることは学んできたけど、障がいを持っている人や父のように病気になった人への運動・スポーツ指導ってどうやるのかな」と。「体だけではなく、心理的な面も勉強したい」と思い、大学卒業後に、今度は、受験資格が大卒で運動・スポーツのほか医療福祉も勉強できる厚生労働省所管の学校に進学しました。

【小野寺】なるほど。岩渕さんが車いすラグビーと出会ったのはいつ頃ですか？

【岩渕】出会いは厚生労働省所管の学校でした。車いすラグビーは1977年にカナダで発祥したスポーツで、2000年のシドニーパラリンピックから正式種目になったんですけど、私が在席していた学校は国の施設で、

学校のほかに研究所や病院、リハビリ施設等が集まった多機能施設だったんです。そこで、車いすラグビーがパラリンピックに出場できるように、種目の普及や選手の育成をしていました。

車いすラグビーはアメリカンフットボールに近く、タックルはラグビーと同じくらい迫力のある格闘技のスポーツで、一目見た時からすごくはまりました！学生の頃からボランティアとして選手達の練習をサポートし、卒業し就職してからも練習や大会に関わらせてもらい、2004年からはアシスタントコーチや審判として海外にも行くようになりました。そして2009年からの4年間は、私が代表監督をすることになったんです。国際大会の機会を増やしたり合宿所を安定して確保したり、障がいを持っている人のトレーニングやケアの仕方に配慮しながら、アスリートとしての意識改革や経験を積み重ね、選手のモチベーションを高めていきました。

【小野寺】世界における日本の車いすラグビーの実力というのは、どれくらいなんですか？

【岩渕】日本が初めてパラリンピックの車いすラグビーの種目に参加できたのは2004年のアテネで、成績は8か国中8位、その次の2008年の北京では7位、2012年のロンドンでは4位、2016年のリオでは3位でした。成績は右肩上がりです、2020年の東京では金メダルを目指しています。

## 知られていない一関市の選手や団体

【小野寺】一関市に選手はいるんですか？

【岩渕】車いすラグビーではないですが、千厩に「シッティングバレーボール」という座りながら行うバレーボールでパラリンピックに参加した佐々木政弘選手という方がいますよ。

一番の課題は情報を発信する場がないということかもしれませんね。岩手国体をきっかけに岩手県の障がい者のスポーツ団体ができて、各種目のチームもあるんですが、そういう情報が知りたい人に届いていな

いのではないのでしょうか。

【小野寺】確かに、情報を知らないとい何も始まらないですね。チームや選手の情報を知っていれば「見に行ってみようかな」「体験してみようかな」と思うかもしれませんが、本当に誰かが伝えていかないと、広がっていきませんよね。

【岩淵】まずは情報を知ること、さらに言うとそれは当事者だけではなく当事者に関わる周囲の人たちも同じだと思います。価値観も広がるし、チャンスも増えるし。情報が届き、それを見てもらえる状況ができれば、地域や社会が少しずつ変わっていくかもしれませんね。



2012年ロンドンパラリンピックの時の岩淵さん。大会中は、常にプレッシャーを感じていたといいます。

## 地域を良くするために大切だと思うこと

【小野寺】今後やってみたいことはありますか？

【岩淵】今までの国や海外での経験を一つの物差しとしながら、岩手や一関、室根といった地域の中で、今どんな方々がどんな活動をしているのかなど、そういう状況をこれから見ていきたいと思っています。障がい者だけではなく子どもも高齢者も、我々のような社会人も、この地域に合ったスポーツの発展の仕方はどういうものかを考えたいです。

それに、まずは地域の人にどのように情報を知ってもらうかですね。情報が無ければ選択もできませんからね。地域が5年後、10年後に良く変わっていけるような仕組みをつくること、そこに問題意識を持つことが必要だと思っています。

【小野寺】地域でも色々とスポーツや運動はあって、その中でも個人種目はわりかし個人で高めることができますが、団体種目だとそもそもチームが形成できないという現状もありますよね。小学校の児童数が少なくて野球チーム1チームもつukれないとか、合同で練習してたりとか。

【岩淵】そうなんですよね。そこでどんな工夫したら良いとか、どんな情報を探せば良いとか。常にアンテナを高く持ちながら情報をキャッチして、それをどう地域に根付かせていくかを考えていかなければと思うんですけど、それを選択するのは地域ですよね。誰かにやらせられるのではなく自分達が主体的に行い、「こんな風にしたい」という形が見えてきたら、今度はそれをバックアップすれば良いと思います。

【小野寺】地域づくりもそのパターンですね。「こんな

地域にしましょう！」と押し付けちゃうと無責任な地域づくりになってしまうので、どんな地域にしたいかを考えてもらい、主体性を持たせる方がのびのびと責任を持ってやっていけると思います。今は、これまでの行政主導型の地域づくりから地域主導型に変わるというちょっとした“転換期”を迎えています。いきなり地域の皆さんに「どうしたら良いか考えて意見ください」「アイデアを出してください」といっても正直戸惑いはあると思います。でもそこが今大事な悩みの時期でして、その苦しみを抜けると「やっぱり自分達で一步踏み出そうかな」という自信に繋がるんじゃないかなと。やはり、時代の流れと共に地域コミュニティは変わらなきゃいけない部分と変わらずに残っていかなきゃいけない部分があると思います。

あと大事なものは“仕組みづくり”ですね。岩淵さんが話したように、誰がどのように関わり、どう進め、どう運営し、どう地域に根付かせていくかという仕組みが大切ですよ。



【岩淵】そうですね。私がやりたいと思っているのは、今までやってきた経験を通して自分は何ができるかを分析しながら、一関や室根のスタイルをつくるためのきっかけになるような情報発信だったり、自分の経験からの助言であったり。地域を良くするの「良く」は、“有名になる”とか“特別になる”とかだけではなく、地域のオリジナリティを深めるということだと思うんです。それは発展することだけではなく、小さくしたりコンパクトになることも逆に大事だったりしますよね。

自分達の選んだものであればきっと納得できると思うし、高齢者や障がいを持った方も含め、地域皆がイキイキと生きていくための仕組みがつくれれば、楽しい社会になっていくと思います。

## 岩淵典仁さんの連絡先

電話&FAX:0191-64-3243

e-mail:iwabuchi\_norihisa@yahoo.co.jp

※紙面で紹介できなかったお話は「こぼれ話」としてブログでご紹介しています。

[http://blog.canpan.info/ichinoseki/category\\_15/1](http://blog.canpan.info/ichinoseki/category_15/1)

## 団体 紹介



手芸の会の皆さんと住職の渋谷真之さん

### ～基本情報～

- ◆代 表：吉田てい子さん
- ◆住 所：〒029-3521  
一関市藤沢町保呂羽字和田 18
- ◆電 話：0191-63-3988（長徳寺）
- ◆Facebook：https://www.facebook.com/chotokujikeijyuan/

## 気兼ねなく集まれる場を心の拠り所に

### お寺を人が集まれる場として開放

藤沢町保呂羽地区の長徳寺では「慶壽庵(けいじゅあん)」という宗派・地域問わず、誰でも気軽に集まれる場を開いています。今回は、この慶壽庵から生まれた手芸の会や地域との交流などについて、会員の皆さんと長徳寺住職の渋谷真之さんにお話を伺いました。

会の始まりは、平成22年に現代表の吉田てい子さんが地域の人が集まって手芸をできる場として長徳寺を使わせてほしいと相談したのがきっかけ。徐々に参加者が増え、現在は毎月第2・4火曜日におやつを持ち寄り、手芸や会話を楽しんでいます。

### 作品づくりとおしゃべりで生まれるアイデア

人が集まるようになってからは「ただ作るだけでなく、目標を持つ」と毎年開かれる一関市藤沢町文化祭と長徳寺蘇民祭での作品展示を目標に取り組むようになりました。

特に蘇民祭の時にお寺の本堂に飾られる藤の花（藤沢町時代の町花）のつるし飾りの数は圧巻で「阿弥陀様もびっくりするくらい!」と会員の方は話します。お土産用蘇民袋にも藤の花を刺繍したり、先代の住職が亡くなられた際には生前使っていた白衣を使って和尚さんのぬいぐるみを作ったり、次々と出て来るアイデアに渋谷さんも驚かされるそうです。「みんなアイデアウーマンだから」と吉田さんは笑いつつも「こんなことが許されるお寺はないよ。こういう場を提供してもらい、長く使わせてもらえるおかげ」と感謝を交えながらこれまでの活動を振り返ります。渋谷さんも「場所を提供しただけで、会の皆さんが自ら動き出したことで活動が広がっている」と慶壽庵を開いたことで住民主体の活動が生まれたことを喜んでいました。

### コミュニティが生まれ交流が広がる場所

作品づくりだけでなく、活動が始まって翌年の東日本大震災の際には室根の旧津谷川小学校に避難してきた人達へお弁当を作ったり、千羽鶴のつるし飾りや裁縫道具を届けました。

また、デイサービスなどの施設にも作品を展示するようになり、渋谷さんが市外の施設に訪問する際にも作品を持って行き展示されたことがきっかけで、施設の方々が藤沢に訪れたり、交流が広がっています。

作品の展示だけでなく、特別養護老人ホーム光栄荘で行っている地域交流事業へも、参加できる会員がボランティアとして参加しており、施設利用者や職員、地域の人達と交流を深めるほか、昨年開催された藤沢病院ナイトスクールでの光栄荘の職員・地域の人達による認知症や包括ケアについて考える演劇は、手芸の会が脚本のモデルとなり、会員や渋谷さんもキャストとして出演しました。

会員の中には「手芸の会に通うようになって気軽に話せる場ができた」と話す人もおり、渋谷さんは「私自身も手芸の会の活動を通して心のケアについて学ばせてもらっています。お茶っこ飲みやボランティアを通じた話し合える場づくりと交流、作品づくりや展示などの目的を持った活動とその表現による癒しなどが心の拠り所となっています。今の活動に限らず、男性も囲碁や将棋、俳句など何でもいいので、慶壽庵が人が集い、コミュニティが生まれる場になってもらえれば」と今後の発展にも期待を寄せていました。

長徳寺に飾られている藤の花のつるし飾り



## 地域紹介



右：部落館長 岩淵俊美さん  
左：婦人部長 藤原祐美さん

### ～基本情報～

曾慶第 13 区部落会館は 33 世帯、約 100 名が暮らす小さな集落です。“部落会館”という名称ですが自治会と同様の組織。集落では“館長さん”と呼ばれていますが職務は自治会長さん。昭和 45 年に建てられた集会場は老朽化が激しく今年度改修の予定とのこと。会館の鍵管理も館長さんが行っています。

これからは転換期。「眠ってしまった部落」とは言わせない。

### 曾慶第 13 区部落会館に新風巻き起こる

「御多分にもれず少子高齢化の集落。小学生は 3 人だけ、高齢者の一人暮らしは 4 世帯あります」と集落の現状を見つめるのは、曾慶第 13 区部落会館 1 期 1 年目の新米館長、岩淵俊美さんです。岩淵さんは、当センター主催の「自治会長サミット」や、結いネット そげい（地域協働体）などの情報交換の場にも積極的に参加し、集落に持ち帰り共有することを心がけています。

以前は曾慶地区全体で共有すべき情報が集落に行き渡らない状況が続くなど、どちらかといえば集落は停滞期でした。その状況を打破するために白羽の矢が立ったのが岩淵さんで、「13 区に新風が巻き起こる」と噂されるほどアイデア豊富で、他の自治会の活動などを参考に新しい取り組みも積極的に提案しています。

同部落会館は 33 世帯を 3 班に分け、各班に 2 名の班長さんを置いています。また組織としては役員、事務局、子ども会、婦人部、納税貯蓄部で各部長さんは 1～2 年で交代とのこと。役員や地元消防団員のほか、各班、各部から選出された人たちで組織する自主防災会もあり、「必ず何か役が回ってきますから、お互いの協力が大切。住民一人一人が役を持つことで意識が高まります」と岩淵さんは語ります。

### 災害等有事に備える地域力

岩淵さんが今年度最も力を入れた事業は自主防災会です。実は岩淵さん、18 歳から 35 年間自衛隊に所属。関東から北の各地を飛び回っていました。例年、防災訓練は消防署や消防団と一緒に消火器の使用確認や講話などを定番としていましたが、今年は“竜巻”を想定して“なにもかも吹き飛ばされて無くなった”という環境をつくり、もしもの時の対応を訓練したとか。何もない中でどこに避難するか、けが人にはどういふ対応をするべきか実際自衛隊で経験してきたノウハウも伝授しながらの訓練だったようです。

また、初めての試みとして、炊き出し訓練を併せて行ったそうで、婦人部長の藤原祐美さんは「竜巻が来て何もかもない状況でどうやってご飯をつくるか？みんなでお米が炊けるようなものを探したり、火おこしをしたり大変でしたが実際そういう場面があった時のことを考えると勉強になりました」と振り返ります。

今回の防災訓練に合わせた炊き出し訓練について岩淵さんは「毎年防災訓練というと女性の参加者が少なく、『じゃ、どうすれば女性も参加しやすいかな？』と考えた中での取り組みでした。おかげさまで 40 人以上が防災訓練に参加し学びを深めることができましたよ」と笑顔を見せます。

岩淵さんは「災害等の有事に備えるという危機管理意識を持ち、集落でできることは何かを日頃から学び、備えなくてはならないと感じる。」アラートが鳴った時の対応も同様。私たちの住む集落には地下や数分の間で避難できる丈夫な建物はそうそうないと、集落の現状と照らしあわせた岩淵さんは、対応として住民の不安を解消すべく“万が一のことがあったらこのように対応しましょう”という身を守る方法や集落内の頑丈な蔵を記載した文書を作成し部落内に配布したのだそうです。

### 高齢者を孤立させない環境づくりへ

岩淵さんは今後の集落課題として「一人暮らし高齢者を孤立させないこと」を挙げ、「子どもを増やしたいが、それは難しい。高齢者が魅力を感じられる集落にできれば」と語ります。車の運転ができない、外出が億劫になっている高齢者いかに地元行事に参加してもらうか、解決策を模索中とのことでした。



8 月 15 日に開催した夏祭りには老若男女 50 人が参加。初の流しそうめんも大盛況でした。

## 企業紹介



代表取締役  
阿部信夫さん

### ～基本情報～

- ◆代表取締役：阿部信夫さん
- ◆住所：〒029-3101  
一関市花泉町花泉字葉野木田 53
- ◆電話：0191-82-4740
- ◆FAX：0191-82-4740

## 夢のある地域営農をめざして

### 特徴ある運営の仕組み

農業生産法人として岩手県で6番目に設立された有限会社ドリフアー花泉は、集落内の農用地や農業機械・施設等の有効活用や生活環境整備などを促進することにより、農用地の保全、農業生産の向上、農家経営の安定に努め豊かでゆとりある地域社会を形成することを目的とした上金森集落営農組合の上部組織で、平成15年3月に賛同する有志で結成しました。

2階建ての家をイメージした運営の仕組みが特徴的で、1階に上金森集落全戸加入（30戸）の上金森集落営農組合を置き、農用地利用改善団体として集落の意見を取りまとめ、法人との仲介や転作田作付け調整を行う機関とし、2階部分にあたる有限会社ドリフアー花泉（独立採算制）が、農作業の受託・請負、集落雇用、作物栽培や加工・販売、観光農園の経営、各農家への精算等を担っています。

設立から間もなくして、その特徴的な仕組みを学ぼうと視察や講演依頼が殺到。平成16年11月には一関地方農林振興協議会から一関地方農林業賞（担い手部門）を受賞しました。

### 集落の将来の姿を考える

金森集落は、世界的にも貴重な発見と言われる獣骨「ハナイズミモリウシ」が出土した金森遺跡を有する花泉町花泉地区の西部に位置し、金流川の上流、主要地方道の弥栄・金成線沿いに広がる農村集落で、古くから水稻を中心に果樹（りんご・梨）生産が盛んです。

しかし、年々進む高齢化や後継者不足により個々で農業を営むことに不安を抱える住民も多く、集落の課題の一つとなっていました。

現代表取締役の阿部信夫さんも専業農家を営み課題と向き合ってきたその一人。集落の農林連絡員も担

っていたため「将来的な事を考えるとなんとかしなければ」という思いを抱いていました。

阿部さんは集落営農について学び、当初は農事組合法人の立ち上げを検討し集落に声かけをしていましたが、基盤整備直後で集落として負担金が残っていたこともあり、住民からは賛同が得られず振り出しに。その後も様々な方法を考え「会社方式にしてはどうか？」との意見から、その仕組みづくりを住民と協議してきました。

### 農業も文化も次世代に継承するために

同社では昨年10月に販売開始となった、岩手県最高級米「金色の風」や「いわて純情プレミアムひとめぼれ」など付加価値米の栽培・販売を手掛けています。

「いわて純情プレミアムひとめぼれの栽培は県内でも当社だけ。農薬使用削減や食味値検査による選抜など厳しい栽培品質基準があるが、これも企業として管理することで安定して生産できるのではないかと阿部さん。また、「現在も視察研修の問合せには対応しています。昔から営んできた農業ですから、衰退していくのをただ見ているだけではなにも始まりません。私たちの集落だけではなく、市内にもそういった課題を持っているところがあるのではないのでしょうか？集落で運営するためにできること、出来ないことを整理し集落全体の潤いにつながるよう今後も様々なことに挑戦していきたい」と続けます。さらに、「集落に伝わる郷土文化“御囃子”も農業とともに次世代に伝えていきたい」と将来に向けた展望も語っていただきました。



集落営農の拠点(有)ドリフアー花泉の施設

## センターの 〇〇!

日本では、男性の本厄を25歳、42歳、61歳（いずれも数え年）、これに加え前後1年ずつを前厄・後厄とって健康を害したり災難が降りかかりやすい年齢と言われており、中でも大厄と呼ばれる42歳は特に注意して過ごさなければならないとされています。そのため、その歳の者は災いを最小限にするため、厄除けや厄払い行事を行います。

今回は男性42歳の厄年に市内の各地域ではどのような年祝いを行っているのか調査してみました。

厄年の「厄」は『災厄・苦しみ』などを意味しますが、一方で「振る舞うこと」で厄落としの効果があるとされ、女性33歳のときには男性が中心となり、男性42歳のときには女性が中心となって、それぞれの地域の習わしによって集まり等を設けているようです。

### 地域で祝う42歳年祝い

大東町猿沢地区では男性の大厄である42歳の年祝いに、地元の峠山伏神楽保存会の権現舞とともに町内（市民センターから駐在所の区間（国道添いの表の通り）と保育園、小学校に行く道路周辺（裏の通り））を練り歩き、地域ぐるみでお祝いをしているそうです。昭和12年生まれの人達が42歳の時に始めたと言われるこの「年祝いの練り歩き」は40年も継承され、その年の厄年の方たちで実行委員会を組織し、その年の行事を考えるのだとか。「以前は元日が42歳年祝い、2日もしくは3日が女性33歳の年祝いと2回開催していた」との情報もありました。

練り歩きに欠かせない獅子は、峠山伏神楽保存会の権現様で、獅子の口で頭を噛んでもらう神事。降りかかる災いを祓い人々のあらゆる願いを受け入れ、安泰などを祈禱する舞とのことで今年の年祝いメンバーもしっかり噛んでもらっている様子でした。



2018年1月1日に行われた  
猿沢地区の年祝い



峠山伏神楽保存会を  
先頭に町内を練り歩く



権現舞で災いをお祓い  
良い年になりますように

### その他の調査結果

当センターが独自に調査した結果を右記にダイジェストでまとめました。同窓会的な集まりや、集落でお祝いをしているという結果が多く、その年代によって内容などに違いはあるようですが、地域行事の一つとして定着しているようです。

「神社などでお祓いを済ませた（もしくは直接神社に行きお祓いをしてもらう）赤い手ぬぐいをいただく」との情報聞き込みをしたほとんどの地域で確認することができました。

赤色や身に付けるものは魔除け効果があるとされており、厄年の方へプレゼントを贈るときには下着や服など身につけるものが良いとされています。

### 調査結果ダイジェスト

- ・小学校もしくは中学校単位で集まる（同窓会的な）
- ・自治会（民区）の新年会で祝ってもらう
- ・赤い手ぬぐいを首にかける

# おしらせ

## 大東 一関市・大東大原水かけ祭り

沿道で待ち構えた人々から容赦ない冷水を浴びせられながら「火防祈願」「無病息災」「家内安全」を祈って勇ましく走り抜ける裸男たち。江戸時代から続く歴史ある祭りです。写真コンテストも開催します。(※2月20日(火)まで作品募集)。

\*\*\*\*\*  
【日時】平成30年2月11日(日)9時～15時50分  
(メインの水かけは15時から)  
【場所】大東町大原 大原商店街ほか  
【料金】見学無料  
【問合せ】0191-72-2282(大原市民センター内)

## 千厩 第11回せんまやひなまつり

千厩の女性達がつくる雛飾りを展示する「せんまやひなまつり」。今年は寛永時代に作られた雛人形「寛永雛」の特別展示と、2月11日(日)のオープニングイベントでは、落語家の六華亭遊花さんと漫才師のまつみさんによるステージを開催します。

\*\*\*\*\*  
【期間】平成30年2月11日(日)～3月4日(日)  
【場所】千厩酒のくら交流施設・千厩商店街  
【入場料】200円(中学生以上)※オープニングイベントの入場料は1,000円(ひなまつり入場券・飲み物券付)  
【問合せ】0191-53-2735(一関商工会議所千厩支所)

## 一関 一関ハンドクラフト展 Vol.7

手芸やハンドメイドを趣味とする作家さんが集い、手作品などの販売を行います。今年は過去最多の58店舗が出店！軽食やワークショップ(手作り体験)もありますので、どなたでも遊びにいらしてください。

\*\*\*\*\*  
【期間】平成30年2月16日(金)～17日(土)  
【時間】10時～16時  
【場所】一関文化センター  
【料金】入場無料  
【問合せメール】lovely@redbutterfly.biz  
(red\*butterfly 鈴木亜衣)

## 千厩 せんまやひなまつり 癒しと音マルシェ

園芸雑貨、アロマ香水、キャンドル等のハンドメイド作品の販売や、ピザ、クレープ等の軽食が楽しめる飲食コーナー、千厩高校や宮城県蔵王町在住のシンガーソングライター幹さんによるコンサート等を行います。ぜひご家族でお越しください。

\*\*\*\*\*  
【期間】平成30年2月17日(土)～18日(日)  
【時間】10時～16時  
【場所】千厩酒のくら交流施設 東蔵  
【料金】入場無料  
【問合せ】0191-53-2070(千厩まちづくり(株))

## 一関 自治会長サミット 第3回

自治会運営に携わることから皆さんに“自治会運営のコツ”をご紹介します！今回は「上津谷川自治会(室根)」と「藤沢第8区自治会(藤沢)」に発表いただきます。一関市内の自治会長または準ずる役職員(民区内の集落公民館長)の方が参加できます。

\*\*\*\*\*  
【日時】平成30年2月21日(水)  
13時30分～16時30分  
【場所】川崎市民センター  
【参加料】無料(※要申込)  
【問合せ】0191-26-6400(いちのせき市民活動センター)

## 一関 ほんでら春フェスタ 第4回「～風と光と～」

今年で4回目となる「ほんでら春フェスタ」を開催します。ハンドメイド作品を展示・販売するマルシェや、H&G(Happy&The Gang)さんをはじめとするライブを開催。

霊峰・須川岳と中世荘園の村・本寺が、今年も皆さまを温かくお迎えます。  
\*\*\*\*\*  
【日時】平成30年3月4日(日)10時～15時  
※ライブは12時20分～16時40分  
【場所】骨寺村荘園交流館「若神子亭」ほか  
【料金】入場無料 ※ライブチケットは500円  
【問合せ】0191-33-5022(場所と同じ)

## 一関 春休み親子のコンサート 音楽の絵本

金管五重奏「ズーラシアンブラス」と弦楽四重奏「弦(つる)うさぎ」が、クラシック音楽から映画音楽、童謡を演奏します。動物たちが奏でる多彩な音楽の世界をお楽しみください。※0歳から入場できます。

\*\*\*\*\*  
【日時】平成30年3月24日(土)  
開場13時15分 開演14時  
【場所】一関文化センター大ホール  
【料金】おとな1,000円(当日1,300円)  
子ども500円(600円)※3歳～中学生  
【問合せ】0191-21-2121(場所と同じ)

## 一関 さくらなみき

NPO法人レスパイトハウス・ハンズが運営する福祉サービス事業所「さくらなみき」では、障がいのある方への生活介護、就労支援を提供しているほか、生活困窮者自立支援、生活保護受給者の就労準備支援を行っています。1階の自閉症美術館の企画展は来年度から予定しています。その他問い合わせは下記電話まで。

\*\*\*\*\*  
【場所】一関市中央町1丁目1-4  
【問合せ】0191-48-3622(さくらなみき)

## 全域 「イマカラ」登録者募集

いちのせきの市民活動スタッフバンク、通称「イマカラ」は、一関市内で開催される“スタッフを募集したいイベント”と“地域で活動したい人”をマッチングする仕組みです。当センターのホームページ内「いちのせき市民活動スタッフバンク」のページから無料のスタッフ登録をすると、スタッフを募集しているイベント情報が随時メールにて配信されます。※18歳以上の方がご登録できます。

\*\*\*\*\*  
【問合せ】0191-26-6400  
(いちのせき市民活動センター)

## 今月の表紙



花泉・油島の「お宝・歴史マップ」に掲載されている猫神様に会いに行ってきました。羽養権現社(蚕養神社)はかつては蚕の守り神として遠方からの参拝者もあったそうですが、平成になり廃社に。神社跡にボツと鎮座したままの猫神様。油島の「お宝」として、再び日の目を浴びる日は近い！？

## Q&A あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

**Q** ワークショップを円滑に進めるためには、どんなポイントがありますか？

**A** 本題の話し合いに入る前に、話し合いの背景やこれまでの経過説明(振り返り)、進め方に関する質疑応答など、丁寧な説明と細かな確認作業を随時行い、全員が納得し、常に全員が同じラインに立っていることが重要なポイントです。また、ワークショップに参加する人すべての人が知り合いというわけではありませんので、最初に自己紹介を取り入れてみることで、緊張をほぐし、スムーズに話し合いを始めることができます。

